

質問者



藤岡 緑 議員

Q

小・中学校の耐震診断結果の公表は

A

二次診断の結果を踏まえて
早期に対処します

問

中国四川省大地震で、多くの子どもたちが犠牲になり、改めて学校の耐震性が重要視されるようになった。県内で公表しているのは、松山・新居浜などの4市町にとどまっている。耐震診断結果の公表は、文科省の通知にもあり耐震性を明らかにしないことで、保護者の不安の声も高い。町としての考えを伺いたい。

答

永見教育長

小・中学校の施設について既に第一次診断を行い危険性の高い建物が11、中程度が8、低いものが3棟という結果が出ています。ただ二次診断を実施しないと耐震補強で済むのか、全面改築が必要なのか判断ができません。二次診断については今後5年間でいい、その結果を受けて財政的なことも検討しながら、危険性の高いところから耐震化

工事を進めていく予定です。耐震診断結果の公表については、基本的に二次診断が済み次第具体的な耐震化計画として出していく考えです。当然期間内に集約でき公表できるめどがつけば、順次お知らせしていきます。

問
資源ごみの持ち去りを禁止し保全する対策について

古紙価格の高騰などにより地域住民が回収した資源ごみを町の委託業者以外の者が持ち去るケースが増え、各自自治体対策に苦慮している。以下二つの場合に分けて当町の対策を伺う。
①集団回収（活動奨励補助金制度）の下で集めた場合
②地域のごみ集積所に出された場合

答

町は、①の集団回収を奨励しています

白石町長

①減量等リサイクルを推進する立場から集団回収が一番効果があり町としても奨励しています。町内では、22の団体が設置要綱に基づき登録し活動を続けています。現に町の収集する量の3分の1を集めています。

集団回収であれば被害を受けた時に警察に届けを出し捜査もできますが、一定の条件を踏まえた管

理下に置くことが必要です。例えば、地域の管理下にあることを示す看板の設置、屋内的な場所、施錠保管など持ち去りのできにくい環境整備をすることです。

②地域のごみ集積所では町の委託業者が行く前に持ち去り、通学時には業者の車の横行により危険な状況になっています。現状では、地域の監視を強化して他自治体の罰則付き条例の効果などを見極めつつ検討していきます。

問

エミフルオープン後の地域への影響と取り組みについて

当初懸念されていた交通渋滞や青少年問題等は今のところ順調に推移しているようだが、周辺地域への影響について町の取り組みを伺いたい。

答

フジとの情報交換、連携による取り組み

郷田企画財政課長

今後の対応として特に以下3つの点に注目。

①交通対策

本年8月より町内運行予定のコミュニティバスにより混雑の緩和、住民の皆さんの利便性を高めます。

②雨水の排水対策

フジの雨水調節池施設の24時間体制での管理により緊急時に町と連携して排水調節します。

③青少年健全育成対策

補導委員等のパトロールの継続、学校での指導、家庭、地域ぐるみの見守りを支援します。



資源ごみ みんなで集めて 地域の宝